

アイヌ口承文芸

—夫に浮気された女—

大谷洋一

- 目次 1 まえがき
2 松島トミ氏のイヨルイカ
3 上田トシ氏のウエペケレ

Key Words アイヌ口承文芸 (Ainu oral literature)、イヨルイカ (Iyonruyka)、ウエペケレ (Uwepeker)、散文説話 (Prose tales)

1 まえがき

本稿で紹介するアイヌ口承文芸のテキストは、北海道の門別町（現日高町）出身の松島トミ氏（1922～2010）と平取町出身の上田トシ氏（1912～2005）の語った、文芸ジャンルが異なる口承文芸の二編である。この二編がどのような関係を持ち、どのような経緯で採録したのかを以下に簡単に説明する。

筆者は松島氏から、折り返し句（サケヘ）を付けて神謡形式で語る同じストーリーのイヨルイカ⁽¹⁾を今までに四度採録している。最初に採録したのは1994年9月29日であるが、松島氏は久しぶりに語ったアイヌ語の出来に不満をもらして「恥ずかしいから他人には聞かせるな」と言われた⁽²⁾ので、後日、再録することにした。約2ヶ月後の11月30日に二度目の採録を行い、そのアイヌ語対訳テキストを筆者は研究紀要で報告し⁽³⁾、音声資料は「厚別川流域の韻文物語」と題して北海道博物館で公開している⁽⁴⁾。三度目は1996年3月8日にむかわ町末広にあるコミュニティセンター「ムベツ館」において、平取町、門別町、むかわ町出身のアイヌ語話者の方々4人に集まってもらい、各人が伝承する物語や歌などを語り合っていた際に録音した。

その時に松島氏が語った本稿「2」のイヨルイカを同席していた上田氏が聞き覚えて散文説話として再話した本稿の「3」を筆者は1997年9月27日に採録した。

松島氏のイヨルイカはゆったりしたメロディーで語

られ、口演時間は10分51秒である⁽⁵⁾。上田氏の語りには松島氏のイヨルイカの内容にはない場面を付け加えた表現が見られるが、イヨルイカに比べて、より早い口調で語っているために約6分の口演時間に短縮されている。松島氏の語りでは結末で「オタスツ」という地名が語られるが、上田氏の語りには地名は出てこないなど、散文の語りでも再話するにあたっての変異がいくつか見られる。

〈アイヌ語テキストの凡例〉

(1) 本文の構成

二段組として、一段ごとにアイヌ語による語りはカタカナとローマ字の順で表記した。その下に日本語訳を記し、注記は各ページの下に記した。

(2) カタカナの表記

基本的に北海道ウタリ協会発行の『アコロ イタク』の表記の仕方と同じである。ただし音節末の r はそのときどきで、ラ、リ、ル、レ、ロ、に近い音が出たり、母音が付いたりする場合があるので、それが比較的目立つ場合はその近い音を記した。また、言いさしや特に意味をなさない言いよどみは（ ）で括った。聞き取りや解釈の難しい単語の後に（？）を付した。

音素交替によって変化した音はそのとおりに記した。

例：「ポン セタ」→「ポイ セタ」。

(3) ローマ字の表記

基本的に『アコロ イタク』と同じ方式で記した。音

大谷洋一：北海道博物館 アイヌ民族文化研究センター アイヌ文化研究グループ

(1) イヨルイカは「子守り歌」と訳されることが多いが口演の形態は二種類ある。一つは実際に子守の時に子供あやすために聞かせる歌、もう一つは内容に物語性があり、神謡（松島氏はメノコユカラと呼称する）と同じように折り返し句（サケヘ）を付けて韻文で語り進める語り物である。

(2) この資料は松島氏の意向で音声資料は非公開としている。

(3) 大谷洋一「松島トミの伝承」『北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要 第1号』北海道立アイヌ民族文化研究センター（1995）

(4) 公開資料番号はCC800005。

(5) 原資料はCC000340であるが、現時点で公開資料作成はしていない。

素交替を起こしたところは、単独で発した場合の形で記した。

例：「poy seta」→「pon seta」。

よく聞き取れない音や意味の解釈が不確実な語句については、そのローマ字の語尾に「??」を付けた。

(4) 対訳の〔 〕内表記

音便や日本語北海道方言については、註あるいは〔 〕内にことばを補った。

(5) 参考にしたアイヌ語辞典は以下のとおりであり、本編の注釈内では〔 〕にそれぞれの筆者の頭文字を記した略号として用いた。

[萱] 萱野茂 1996. 萱野茂のアイヌ語辞典. 三省堂.

[久] 久保寺逸彦 1994. 平成3年度 久保寺逸彦 アイヌ語収録ノート調査報告書 (久保寺逸彦編 アイヌ語・日本語辞典稿). 北海道文化財保護協会・北海道教育庁生涯学習部編.

[田] 田村すず子 1996. アイヌ語沙流方言辞典. 草風館.

[中] 中川裕 1995. アイヌ語千歳方言辞典. 草風館.

2 松島トミ氏のイヨンルイカ

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

ネベチシカラ フーワ ハオー
nep e=ciskar huwa hao

どうして泣いているの。

エヌ ルスイ チキ⁽⁶⁾ フーワ ハオー
e=nu rusuy ciki huwa hao

お前が聞きたいのなら

アエヌレ ナ フーワ ハオー
a=e=nure na huwa hao

私はお前に聞かせるよ。

イテキ チシノ フーワ ハオー
iteki cisno huwa hao

泣かないで

ピリカノ フーワ ハオー
pirkano huwa hao

ちゃんと

エヌ ヤク ピリカ ナ フーワ ハオー
e=nu yak pirka na huwa hao

聞いたらいいさ。

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

エオナハ アナク フーワ ハオー
e=onaha anak huwa hao

お前の父さんは

トノコウイマム フーワ ハオー
tonokouymam huwa hao

日本に交易に

シサムコウイマム フーワ ハオー
sisamkouymam huwa hao

和人に商いに

キ ワ イサム ワ フーワ ハオー
ki wa isam wa huwa hao

行ってしまって

オカケヘ タ フーワ ハオー
okakehe ta huwa hao

その後で

アホニヒ アラカ ワ フーワ ハオー
a=honihi arka wa huwa hao

私のお腹が痛くなって

ヌワプ ユプケ ワ フーワ ハオー
nuwap yupke wa huwa hao

お産がきつくて

ヘマカシ ホクサン フーワ ハオー
hemakasi hokus=an huwa hao

部屋の奥に倒れた。

ヘサシ ホクサン フーワ ハオー
hesasi hokus=an huwa hao

囲炉裏の方に倒れた。

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

ヘコチャアン ワ フーワ ハオー
hekoca=an wa huwa hao

私はもがいて

アエエヌワプ ワ フーワ ハオー
a=e=enuwap wa huwa hao

私はお前を産んで

タネ タ パクノ フーワ ハオー
tane ta pakno huwa hao

今まで

(6) 「チキ ciki」の第2音節の母音がやや弱く聞こえる。

アエレス ワ フーワ ハオー

a=e=resu wa huwa hao

お前を育てて

エカン アン ルウェ ネ フーワ ハオー

ek=an an ruwe ne huwa hao

きたのです。

ホローロー ローロー フーワ ハオー

hororo roro huwa hao

エオナ アナク フーワ ハオー

e=ona anak huwa hao

お前の父さんは

(トウッコ)トウ パ カ レ パ カ フーワ ハオー

tu pa ka re pa ka huwa hao

二年も三年も

ヤニサム ルウェ ネ フーワ ハオー

yan isam ruwe ne huwa hao

帰って来なかった(?)のです。

シネ アン パ タ フーワ ハオー

sine an pa ta huwa hao

ある年

ヤン ルウェ ネ フーワ ハオー

yan ruwe ne huwa hao

父さんが陸に上がって来た。

シサム メノコ フーワ ハオー

sisam menoko huwa hao

和人の女を

トノ メノコ フーワ ハオー

tono menoko huwa hao

殿様の女を

トウラ ワ ヤン ルウェ ネ

tura wa yan ruwe ne

連れて上陸したのです。

ホローロー ローロー フーワ ハオー

hororo roro huwa hao

ウェン キンラ、あつ、とぼしたよ。ごめんなさい。

ふふふ…

サパハ キタイ タ フーワ ハオー

sapaha kitay ta huwa hao

頭のとっぺんに

パシクル レパ ペコロ⁽⁷⁾ フーワ ハオー

paskur repa pekor huwa hao

カラスが止まったよう

アン メノコ フーワ ハオー

an menoko huwa hao

になっている女を

トウラ ワ ヤン ルウェ ネ フーワ ハオー

tura wa yan ruwe ne huwa hao

連れて上陸したのです。

ウェン キンラ ネ フーワ ハオー

wen kinra ne huwa hao

激しい怒りが

イコヘタリ フーワ ハオー

i=kohetari huwa hao

私にわき起こって

ヤイケシテアン クス フーワ ハオー

yaykeste=an kusu huwa hao

私は家出をするために

アシケヘ アカラ ワ フーワ ハオー

a=sikehe a=kar wa huwa hao

荷物をまとめて

イキアン ヒケ フーワ ハオー

iki=an hike huwa hao

いたところ

ホローロー ローロー フーワ ハオー

hororo roro huwa hao

シサム メノコ フーワ ハオー

sisam menoko huwa hao

和人の女が

トノ メノコ フーワ ハオー

tono menoko huwa hao

殿様の女が

イルシカ キ ワ フーワ ハオー

iruska ki wa huwa hao

腹を立てて

カンピ ヌウェ⁽⁸⁾ ワ フーワ ハオー

kampi nuwe wa huwa hao

手紙を書いて

ウタリ ウタラ フーワ ハオー

utari utar huwa hao

親戚たちを

(7) 松島氏は「カラスの止まったような」頭について、和人女性の「銀杏返し」という髪のかき方であると教示された。それは髻を二分して左右に曲げて膨らませている様がカラスの広げた羽のように見えるとのことであった。幕末頃から大正時代まで10代後半から30代までの女性に流行った髪型で、京都では「蝶々髻」と呼ばれる。松島氏は銀杏返しをしなかったが、3歳年上の姉の厚別ナミ氏は若い頃にそれを結った事があると言う。なお、松島氏によれば「レパ repa」で「(鳥が)とまる」という意味があるという。各種のアイヌ語辞典では「レウ rew」という語形で記載されている。

(8) 松島氏は「～を書く」という意味のアイヌ語を常に「ヌウェ nuwe」と発音していた。

ホトウイパカラ ワ フーワ ハオー
hotuypakar wa huwa hao

呼んで

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

チブ ライシケヘ フーワ ハオー
cip raysikehe huwa hao

大船団が

トノ ライシケヘ フーワ ハオー
tono raysikehe huwa hao

和人の大集団が

ヤッパ ルウェ ネ フーワ ハオー
yappa ruwe ne huwa hao

上陸したのです。

エオナ アナク フーワ ハオー
e=ona anak huwa hao

お前の父さんは

アコチャランケ フーワ ハオー
a=kocaranke huwa hao

談判をされた。

アコトウミコロ ワ フーワ ハオー
a=kotumikor wa huwa hao

戦いを挑まれて

イヤシンケレ フーワ ハオー
iyasinkere huwa hao

償い品を取られ

アキレブ ネ クス フーワ ハオー
a=kire p ne kusu huwa hao

せしめられたために

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

チセ オッタ オカイペ フーワ ハオー
cise or ta okaype huwa hao

家の中にあった物

シントコ ネ ヤッカ フーワ ハオー
sintoko ne yakka huwa hao

行器 (ほかい) でも

パッチ ネ ヤッカ フーワ ハオー
patci ne yakka huwa hao

鉢でも

エムシ ネ チキ フーワ ハオー
emus ne ciki huwa hao

刀剣でも

ピリカ ヒケヘ フーワ ハオー
pirka hikehe huwa hao

良いものを

チペシクテパ ワ フーワ ハオー
cipesiktepa wa huwa hao

船をそれでいっぱいにして

シサム メノコ アトゥラ ワ イサム⁽⁹⁾
sisam menoko a=tura wa isam

和人の女性は連れられて行ってしまった。

ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

エオナ アナク フーワ ハオー
e=ona anak huwa hao

お前の父さんは

ヘムイムイエ ワ フーワ ハオー
hemuymuye wa huwa hao

着物を頭からかぶって寝て

クンネ ヘネ フーワ ハオー
kunne hene huwa hao

夜も

トカプ ヘネ フーワ ハオー
tokap hene huwa hao

昼も

ヘムイムイエ ワ フーワ ハオー
hemuymuye wa huwa hao

ふて寝して

モコロ ワ パテク フーワ ハオー
mokor wa patek huwa hao

寝てばかり

アン⁽¹⁰⁾ アイネ フーワ ハオー
an ayne huwa hao

いたあげく

ホッケ (咳)

hotke…

(9) この行は散文口調で語っている。

(10) 「アナン an=an (私はいた)」と聞こえるが、1994年の口演では「モコロ ワ アナイネ mokor wa an ayne (彼は寝ていたあげく)」と三人称で語っている。ここは言い間違えと判断してカタカナとローマ字を三人称で記した。

エプ カ イサム フーワ ハオー
ep ka isam huwa hao
食べ物もなくなってしまう
ミプ カ イサム フーワ ハオー
mip ka isam huwa hao
着る物もなくなってしまう
ホッケ ウシケ ワ フーワ ハオー
hotke uske wa huwa hao
横になっていたところから
ラオアフン ワ フーワ ハオー
raoahun wa huwa hao
地下に落ちて
ライ ワ イサム ヤカイエ フーワ ハオー
ray wa isam yak a=ye huwa hao
死んでしまったと言われたんだよ。
ホローロー ローロー フーワ ハオー
hororo roro huwa hao

タネ オカ フーワ ハオー
tane oka huwa hao
今いる
アイヌ ネ ヤッカ フーワ ハオー
aynu ne yakka huwa hao
アイヌであっても
シサム ネ ヤッカ フーワ ハオー
sisam ne yakka huwa hao
和人であっても
エネ アン ウェン プリ フーワ ハオー
ene an wen puri huwa hao
このような悪い行いを
ソモ エチキ ナンコン ナ フーワ ハオー
somo eci=ki nankor na huwa hao
するのではないよ
セコロ⁽¹¹⁾ ハウエアン コロ オタストウン マツ
sekor hawean kor Otasut un mat
と言いながらオタスツの女が
ヤイケウコロ ワ イソイタク セコロ。おわり。
yaykewkor wa isoytak sektor. OWARI.
つらい目にあって物語ったんだと。

3 上田トシ氏のウウェペケレ

(アホクフ)⁽¹²⁾ アン ヒネ
(a=hokuhu) an hine
私には夫がいて
トゥラノ オカアン ワ
turano oka=an wa
一緒に暮らして
ネプ アシリキラプ カ ソモ キ ノ
nep a=esikirap ka somo ki no
なんの心配もしないで
オカアン ペ ネ ア プ
oka=an pe ne a p
暮らしていた。
ネ コロカ パテク アエシリキラプ ペ
ne korka patek a=esikirap pe
けれども、ただ辛かったのは
ポサカン ワ ネ ヒ パテク
posak=an wa ne hi patek
子どもがいなかったのでそればかり
アエシリキラプ コロ オカアン ヒケ⁽¹³⁾
a=esikirap kor oka=an hike
を私は嘆き悲しんでいたところ
オラノ アコン ニシパ (ア) ウイマム コロ
orano a=kor nispa uymam kor
私の夫が交易をすると
オラノ ウサ オカイペ
orano usa okaype
それから、いろいろなものを
ピリカ (ア) ワ オカイペ パテク
pirka wa okaype patek
美しいものばかりを
レプン ワ、(ア) ペ ネ クス
repun wa, pe ne kusu
沖に出ていたので
(チプ) チプ シクテノ (オ) コロ ワ エク
cip sikteno kor wa ek
舟いっぱいにして来た。
ウサ シントコ ウサ パッチ
usa sintoko usa patci
行器や鉢や

(11) これ以降は散文口調で語っている。

(12) 録音のスイッチを入れる前に上田氏が語り始めたが、物語の出だしは()内の言葉である。

(13) 語り初めのここまでの語句は松島氏のイヨルイカでは語られていない。松島氏の語り初めは赤ん坊を「泣かないでちゃんとお前は聞きなさい」と赤ん坊に言い聞かせる場面から始まっている。つまり、松島氏の語りでは赤ん坊は既に生まれていることになる。

ネプ ネ ヤッカ ピリカ ワ オカイペ パテク

nep ne yakka pirka wa okaype patek

なんでも立派なものばかりを

チベクサ ワ アエケウニ (?)⁽¹⁴⁾ (エ)

cipekusa wa aekewni??

彼はそれを舟で運んで来て (?)

チセ シクテノ ウサ オカイペ イキリ

cise sikteno usa okaype ikiri

家いっぱいいろいろなもの山を

アカラ コロ オカアン ペ ネ ア プ

a=kar kor oka=an pe ne a p

作ってくらしていたのだが

ラポッケ (ホ) ホンコロアン ヒネ

rapokke honkor=an hine

そうしているうちに私は妊娠して

エアラキンネ アエヤイコプンテク

earkinne a=eyaykopuntek

とても私は喜んだ。

アコン ニシパ カ エヤイコプンテク⁽¹⁵⁾ コロ

a=kor nispa ka eyaykopuntek kor

私の夫も喜んで

オカアン (ア) ペ ネ ア プ

oka=an pe ne a p

暮らしていたのだけれども

ナ ヌワプアン カ ソモ キ ラポク

na nuwap=an ka somo ki rapok

まだ私が出産しないでいたところ

アコン ニシパ ウイマム ワ

a=kor nispa uymam wa

私の夫が交易に行つて

イサム アクス オロワノ

isam akusu orowano

いなくなつてから

ホシピ カ ソモ キ

hosipi ka somo ki

帰つて来なかつた。

イネ ヘンパク ツプ アン ヤッカ

ine hempak cup an yakka

いくつもの月が経つても

アコン ニシパ ホシピ カ

a=kor nispa hosipi ka

私の夫は帰つても

ソモ キ コロ オカアン ラポッケ

somo ki kor oka=an rapokke

来ないで私が暮らしていたところ

ヌワプアン ルウェ ネ アクス

nuwap=an ruwe ne akusu

私は(陣痛で)うめくと

オロワノ (ノ) プイネ アナン ワ

orowano puyne an=an wa

それから一人で

ヌワプアン ペ ネ クス

nuwap=an pe ne kusu

私は苦しんでうめいたので

エネ ネ ヒ カ イサム ノ (オ)

ene ne hi ka isam no

どうしようもなくて

(ヘサシ) ヘサシ シキルアン

hesasi sikiru=an

いろいろの方に向きを変え

エシルイネ⁽¹⁶⁾ シキルアン コロ

esiruyne sikiru=an kor

奥の方に向きを変えながら

(ヤイウエンヌカラ)⁽¹⁷⁾

yaywennukar

ヌワプコヤイウエンヌカラアン コロ

nuwapkoyaywennukar=an kor

出産に苦しみながら

アナン アイネ (ヌワプ オカ)

an=an ayne

いたあげく

ヌワプアナクス ピリカ ワ オケレ

nuwap=an akusu pirka wa okere

私が出産するととてもかわいい

オッカヨ ポイソン アコロ ワ オロワノ

okkayo poyson a=kor wa orowano

男の子を産んでから

アエヤイコプンテク コロ アチョクヌレ コロ

a=eyaykopuntek kor a=coknure kor

私は喜んでキスしながら

アナン ヒケ カ オラノ

an=an hike ka orano

暮らしていたがそれから

(14) 音声は不明瞭であるが文脈上は「エク ヒネ ek hine (来て)」という語が期待される箇所である。あるいは二行下に「a=kar kor oka=an pe ne a p」とあるように[中]で区分される四人称接辞「a=、=an ((物語中の)私)」が付いて「arki=an hine (私が来て)」と言おうとした可能性もある。

(15) 松島氏の語りでは主人公の夫が妻の妊娠を喜んでいる場面はなく、上田氏が付け加えた箇所である。物語の冒頭で子供がいないことを嘆いた後に夫が妻の妊娠に喜ぶ場面などは散文説話の常套的な表現である。

(16) ここは「エシルウエネ esiruwene」のようにも聞こえるが、[萱]に準じて表記した。

(17) この言葉は次の行の言葉の言いさしであると思われる。

イネ ヘンパク パ アン ヤッカ
 ine hempak pa an yakka
 何年か経っても
 アコン ニシパ ホシピ カ
 a=kor nispa hosipi ka
 私の夫は帰っても
 ソモ キ ノ オカアン ラポッケ
 somo ki no oka=an rapokke
 来ないで私たちが暮らしていたうちに
 タネ アコロ ソン カ ポロ ワ
 tane a=kor son ka poro wa
 今や私の幼な子も大きくなって
 オラノ トウラノ (オ) アナン
 orano turano an=an
 それから一緒に暮らした。
 ナ ネウン ネウン イキアン ワ
 na neun neun iki=an wa
 もっといろいろ私が働いて
 アコロ ソン トウラノ イベアン コロ
 a=kor son turano ipe=an kor
 私の子供と一緒に食事しながら
 オカアン アイネ タネ
 oka=an ayne tane
 暮らしたあげく今はもう
 アコロ ソン カ ポロ ヒ オラ
 a=kor son ka poro hi ora
 私の子供も大きくなってから
 エアシリ シネ アン タ
 easir sine an ta
 ようやく、あるとき
 レプン チプ ヤン シリ イキ ヒ クス
 repun cip yan siri iki hi kusu
 沖にいる舟が陸に上がった様子だったので
 ペトルン ヘ⁽¹⁸⁾
 pet or un he
 川の方へだか、
 サナン ルウェ ネ アクス
 san=an ruwe ne akusu
 下がって行くと
 アコン ニシパ ヤン ワ エク オラ
 a=kor nispa yan wa ek ora
 私の夫が陸に上がって来て

(フレブ メ)⁽¹⁹⁾ ポンメノコ
 ponmenoko
 若い女を
 ポンマツ ネ トウラ ワ ヤン ワ
 ponmat ne tura wa yan wa
 妾にして連れて来て
 気づいたべき？
 (大谷) ん？うん、イヨルレイカね。
 うん。
 (大谷) ふふふつ。
 ヤン ヒ オラノ
 yan hi orano
 陸に上がってから
 ネ メノコ トウラ ワ エク ヒ
 ne menoko tura wa ek hi
 その女性を連れて来たことを
 (アコ) アコルシカ ワ オラノ
 a=koruska wa orano
 私は夫に向かってそれを怒って
 アコレウエン
 a=korewen
 夫につらくあたった。
 ネ メノコ ネ ヤッカ
 ne menoko ne yakka
 その女であれ
 アコレウエン
 a=korewen
 ひどいあつかいをした。
 ネ アホクフ ネ ヤッカ
 ne a=hokuhu ne yakka
 私の夫であれ
 アコレウエン コロ アナン⁽²⁰⁾
 a=korewen kor an=an
 私がつらくあたっていた。
 オラ ネ トウラ ワ エク メノコ
 ora ne tura wa ek menoko
 それから、彼が連れて来た女
 オトピヒ アナクネ
 otopihi anakne
 の髪というものは

(18) 妻は浜の方へ行くために川沿いに下がって行ったと解釈した。

(19) アイヌ以外の外国人の女性なので「白人」を意味する「フレシサム」の連想から「フレ ポンメノコ hure ponmenoko」と言いさした可能性がある。

(20) 松島氏の語りでは妻は激しい怒りがわき起こって家出しているが、上田氏の語りでは妻が家出したとは語られずに夫や和人の女に「ひどいあつかいをした」と表現されている。

な、なに巢言った？ネブ カ nep ka (何か) ?
(大谷) パシクル。

パシクル セツ ヘネ ネノ カネ アン
paskur set hene neno kane an

カラスの巢のようでもある

オトプ コロ カネ アン メノコ
otop kor kane an menoko

髪を持った女を

トゥラ ワ エク ワ オラノ (オ)
tura wa ek wa orano

夫が連れて来てから

ポ ヘネ アコルシカ ワ
po hene a=koruska wa

なおいっそう私は怒って

アコレウエン コロ アナン アイネ
a=korewen kor an=an ayne

私は怒っていた結果、

オラ ネ メノコ カンピ
ora ne menoko kampi

それからその女は手紙

ヌイエ カ エアシカイ ペ ネ クス
nuye ka easkay pe ne kusu

を書くことができたので

ウタリヒ ウン カンピ ヌイエ ワ
utarihi un kampi nuye wa

親戚へ手紙を書いて

サンケ ワ ネ コトム アン
sanke wa ne kotom an

出したようであるらしく

シネ アン タ チプ ヤン アクス
sine an ta cip yan akusu

あるとき舟が上がると

インネ レプンクル ヤブ⁽²¹⁾ ヒネ
inne repunkur yap hine

大勢の外国人が上陸して

オラノ アコン ニシパ (ア)
orano a=kor nispa

から、私の夫に

コチャランケパ ロク ヒネ
kocarankepa rok hine

彼らが談判して

アコン ニシパ エネ ネ ヒ カ
a=kor nispa ene ne hi ka

私の夫はどうしようも

イサム ペ ネ クス ヤユナシケ ヒ オラ
isam pe ne kusu yayunaske hi ora

なくなったので謝ってから

エネ イキリ カラ ワ オカ ロク
ene ikiri kar wa oka rok

あのように山積みになっていた

ウサ シントコ ウサ パッチ オピッタ
usa sintoko usa patci opitta

行器も鉢もすべて

アコウイナ アコケレケリ ワ
a=kouyna a=kokerkeri wa

奪い取られて

イサム オラノ ネア メノコ カ
isam orano nea menoko ka

しまってから、例の女も

トゥラ ワ パイエパ ワ
tura wa payepa wa

連れだって行って

イサム ワ オラノ オカケ タ
isam wa orano okake ta

しまってから後で

アコン ニシパ コヘムイムイエ ワ (ワ)
a=kor nispa kohemuymuye wa

私の夫はふて寝して

イペ カ イク カ ネプキ カ ソモ キ ノ
ipe ka iku ka nepki ka somo ki no

食事も飲酒も仕事もしないで

コヘムイムイエ ワ アン ラポッケ
kohemuymuye wa an rapokke

ふて寝している間に

アコロ ソン アナクネ
a=kor son anakne

私の子供は

タネ ポロ プ ネ クス
tane poro p ne kusu

今や大きくなったので

ナ ネウン ネウン イキ ワ
na neun neun iki wa

もっといういろいろ働いて

(21)「ヤン yan (陸に上がる)」の複数形「ヤブ yap」が使われているので舟が何艘も来ていることがわかる。「レプンクル repunkur (海外の人)」とは本州に住む和人のことである。

ヤイカタ アナク

yaykata anak

自分というのは

ネブ アエシルキラブ カ ソモ キ ノ

nep a=esirkirap ka somo ki no

何も心配もしないで

オンネアン コロカ

onne=an korka

年を取ったけれども

アコン ニシパ アナクネ

a=kor nispa anakne

私の夫は

ペウレ ヒ タ ウエンプリコロ

pewre hi ta wenpurikor

若い時に素行が悪かった

ペ ネ アクス

pe ne akusu

ので

ウエンシルキラブ アイネ

wensirkirap ayne

ひどく苦勞したあげく

オンネ ワ イサム⁽²²⁾ って。

onne wa isam TTE.

死んでしまった。はっは、はー…。

(大谷) いやー、いや。

(上田) カムイユカラ kamuyyukar (神謡) だ。けど、

(大谷) うん。

(上田) 思ったけども、面白いながら聞いたったもの、

(大谷) うん。

(上田) なにしてか、今朝、ひょっと思い出して。

(大谷) おー。

(上田) これ、ウウエペケン uwepeker (散文説話) に、
短いウウエペケンに言っても、

(大谷) ちょうどいい。

(上田) いいなーと。

(大谷) ね、これ、いいね。

(上田) 思いながら、

(大谷) こんど、どっかで喋ってやればいいんだ。

(上田) ふっははははっ…。

(22) 松島氏の語りでは、夫がふて寝していたあげく「ラ オアフン ワ ra oahun wa (地下に落ちて)」死んでしまったと表現されている。

Narrative Prose of Ainu Oral Literary Art: The Woman Betrayed by Her Husband

OHTANI Yoh-ichi

This study has two parts: (1) an audio record of Ainu oral literature, in original Ainu as recorded by the author of this study; and (2) the Japanese translation as text.

On March 8th, 1996, Ms. MATSUSHIMA Tomi (1922-2010) performed an *iyonruyka* in progressive verse. Ms. UEDA Toshi (1912-2005) listened to and memorized the presentation. She removed the melody and refrain from the *iyonruyka*, and on September 27th, 1997, presented the reconstructed literature as an *uwepeker*.

To summarize the story, a man who had visited Japan to trade returned with a Japanese woman, so his wife, in anger, took their infant child and ran away from home. Meanwhile, when the Japanese woman sent a letter to her relatives, the husband's house was beset by a host of quarrelsome Japanese. Losing the argument, the husband had all of his treasures seized in compensation. The husband sulked in bed until he ran out of food and perished. The story is told from the perspective of its protagonist, the wife.